

我が家ストーリー第2話 デイサービス

注:このストーリーはフィクションです。登場人物のモデルもなく、実在の人物とは全く関係ありません。

第2話 秋雄さん(80歳)の場合

今、俺は張り切っている。こんな気持ちになるのは20年ぶりだ。

ことの発端は半年前、息子の嫁が言ってきたことだった。

「お義父さん、上溝に新しいデイサービスができたんだって。介護保険料を払っていて、せっかく要支援2になったんだし、試しに行ってみたら。」

そうなのだ。俺は「要支援2」。最初そう聞いたとき、「別に支援なんて頼んどらんのに」と思ったが。

1年前に脳梗塞で入院、幸いそれほどひどくなく、リハビリをして、1ヶ月ほどで我が家に帰ってこられた。これでどんどん良くなるかと思っただが、いつまで経っても体の左半分が思いどおりに動かない。これには参った。

カミさんが元気なら、盛大にグチを言っていたところだろうが、3年ほど前にカミさんはガンであっけなく逝ちまった。その昔、営業の鬼でならした俺もさすがに弱気になった。

その上、少しずつ体が思うように動かなくなっている気がする。そんな自分を近所に見せたくなく、散歩の回数もそと、少しずつ減らすようにした。

だが、そんなことは嫁さんには筒抜け。だいぶ、心配しているようだ。近所の自治会館でやっていた「介護者教室」とやらに行ってから、俄然「介護保険」に目覚めて要介護認定とかデイサービスとか、折に触れ俺に勧める。ありがたい気持ちもあるが、正直うるさい。すまんとは思うが。

「なんでも『人生わくわく横丁』っていうんですって！おもしろそうじゃない？お義父さん試しにどうかしら？」

何をいまさら「人生わくわく」だ。俺がもう少し元気で、毎日1万歩は散歩していた頃、朝、あちこちで「デイサービス」と書いたワゴン車を見かけた。乗り込むのはほとんど婆さんばかり。婆さんと歌やらゲームやらやりたい奴ならまだしも、俺はごめんだ。

「お義父さん。ここは男の人もたくさん利用しているらしいよ。」

いつになく嫁はしつこかった。実はこの嫁は、カミさんの若い頃にちょっと似ている。一生懸命に言われると弱い。

「わかったよ。試しに顔だけ出してみるか」と思わず言ったら、満面の笑み。この笑顔にほだされた。

後日、契約とやらで、デイサービスの担当者がきて、なんだかいろいろ聞かれた。要介護認定の調査の時と違って、話の聞き方がうまい。ついつい、気持ちよくいろいろしゃべってしまった。(注①)

いよいよ、初めてデイサービスに行く日。緊張した。まずは何を着ていいのかわからん。こういうときカミさんがいないのは困る。しょうがない、嫁に相談した。嫁は「とりあえず、普段着よりちよい上あたりがいいかしら」などとなんだかやけに機嫌がよい。9時過ぎに玄関前にきた迎えの車に乗り込む。

嫁は「行ってらっしゃい！頑張ってね！」

…何を頑張れというのだろうか？…。

デイサービスに到着。契約の時にきた人もいる。

「ようこそ、お待ちしております！」

なんだか、気持ちのよい挨拶だった。俺は営業経験が長いからよくわかる。

「今日は、最初の日だから、のんびりとお過ごください。まずはお飲物を用意しました。お好みはアメリカンコーヒーのブラックでしたね。今朝もそれですよろしいでしょうか。ほかにこのメニューのとおりいろいろな飲み物がございます。(注②)」

なぜ、俺の好みを知っている？と驚いたがそういえば契約のときそんなことも話したかもしれない。

「こいつはなかなか」とちょっとうれしい。

続々と、ほかの利用者が到着する。やはり女性が多いが、男性も意外と多い。嫁のいったことは嘘ではなかったようだ。

一日目ということで、一人の職員(ケアワーカーというらしい)が案内役についてくれている。女性だったので緊張したが、とにかく、聞き上手というか、話がしやすい。(注③)

つつい調子に乗った。

俺は会社で営業一筋だったが、学生の頃は、小説が大好きで、歴史の教師になりたかった…真剣に聞いてくれるのでそんなことまで話した。

そんな感じで俺の最初の一日が終わる。昼間からの風呂は気持ちよかったし、お昼も意外とおいしかったが、とにかく緊張し、どっと疲れた。

次の週の時だ。デイサービスに到着して、やはりコーヒーで一息入っていたところ、先日の職員さんが、声をかけてきた。

「先日、歴史の小説がお好きだったとお聞きしたので、こちらのコーナーをご案内しようかと思ったのですが…。」

見れば、本が並んだ一角にテレビとタイプライターみたいなのが置いてある。いやワープロか。

「このパソコンで、いろいろな小説がごらんになれます。自由に字の大きさも変えられるので読みやすいですよ。本がお好きだとおっしゃっていたのでお勧めしようかと…」

何?!「パソコンなんて」と思わず後ずさりしたが、画面をみると、画面にいろいろな本が並んでいる。

「指でタッチして本を選べます。それからここをさわると自由に字の大きさも変えられます。」

画面をのぞき込むと、吉川英治の「宮本武蔵」がある。(注④)思わず「おおっ！」と声が出た。



「使い方がわからなくなったら、声をかけてくださいね。」

うーむ、おもしろい。これならルーペを使わなくても本が読める。若い頃、夢中になった吉川英治だが、この年になって読むことができ、またその気になるとは思わなかった。

他では、にぎやかにゲームやら体操やらやっているが、このコーナーは静かで雰囲気が良い。(注⑤)

あれから、半年。

息子のパソコンを俺のものにし、デイサービスと同じ設定にした(といっても、俺が設定できるわけではなく、デイサービスのスタッフに相談したらボランティアを派遣してくれた(注⑥)のだが)。おかげで、「宮本武蔵」を読破し、「三国志」の再読に挑戦している。そうそう、孫のアキが来たとき、宮本武蔵の話をしたらやたら感心された。アキは、なんと漫画で宮本武蔵を知っているらしい。孫に「教える」という感覚がとても良い気分だった。



いつの間にか、あそこのデイサービスに行くことが俺の生活の一部になった。最近はボランティアさんに教えてもらって、ブログを作っている。(注⑦)「この俺が？」と自分でも信じられない。会社の定年直前にいやいやながら営業日誌をワープロで入力させられたことが今頃役に立つなんて思ってもみなかった。

なんということもない文章だが、80歳の爺さんが書いている文章が面白いのか、感想をくれる人がいて、これがまたうれしい。

パソコンをいじる合間に筋力トレーニングみたいなことをやる。(注⑧)以前より、左膝が上がるようになってきた。

明日は、デイサービスに行く日だ。そのことを思うと、俺は「わくわく」した気持ちになる。(終)

☆☆解説『ずっと我が家』 応援拠点で私たちが目指しているケア☆☆

デイサービスの担当者がきて、なんだかいろいろ聞かれた。要介護認定の調査の時と違って、話の聞き方がうまい。ついつい、気持ちよくいろいろしゃべってしまった。(注①)

『ずっと我が家』応援拠点(仮称)でのデイサービスは、コスモスセンターのデイサービスセンターを「人生わくわくデイ」として、移転する予定です。ですので、現在も日々取り組んでおりますが、さらに一人ひとりのご利用者のニーズに応えるべく、多彩なプログラムを開発してまいります。

このためには、ショートステイと同じく、デイサービスのスタッフも、ご利用者のお気持ちを汲み取り、ご希望を把握していくことが大切です。デイスタッフ全員がこのことをさらに心がけます。

また、ケアマネさんや地域包括支援センターに、『ずっと我が家』応援拠点でのデイサービスの特色を解りやすくご説明・ご提供します。ご本人やご家族様がサービスのご利用の際に、選択しやすいように努めていきます。

お好みはアメリカンコーヒーのブラックでしたね。今朝もそれでよろしいでしょうか。ほかにもこのメニューのとおりいろいろな飲み物がございます。(注②)

ホスピタリティ(「誠意」と「好意」)の精神に基づき、デイサービスのご利用の際には、押しつけにならない程度で、ご利用者にうれしいサプライズがあること、また、わかりやすい選択肢がお示しすることを目指してまいります。

聞き上手というか、話がしやすい。(注③)

デイサービスの場合は、会話だけでなく、ご利用のいろいろな場面でご利用者様のニーズを把握していくことは大変重要です。現在のコスモスセンターのデイサービスでも日々努力しておりますが、この点につきましては、さらに重点的に取り組んでいきます。

画面をのぞき込むと、吉川英治の「宮本武蔵」がある。(注④)

ここは、現在、検討中の新たなサービスの一例となっています。電子ブックのご提供については作品によっては、著作権の問題がございますので、ご提供できる作品の制限や別途ご利用料がかかる場合が想定されます。現在検討中ということでご理解願います。

にぎやかにゲームやら体操やらやっているが、このコーナーは静かで雰囲気が良い。(注⑤)

『ずっと我が家』応援拠点の基本計画では、カラオケ専用のお部屋など、建物内に様々なコーナーを設け、多様なプログラムを実施できるような環境を整備していく予定です。

デイサービスのスタッフに相談したらボランティアを派遣してくれた(注⑥)

最近ボランティアさんに教えてもらって、ブログを作っている。(注⑦)

現在でも、法人全拠点で日々、たくさんのボランティアさんがご協力いただいています。『ずっと我が家』応援拠点では、さらに、いろいろな場面でのボランティアさんの参加を求めてまいります。

「一芸に秀でた方」でも、そうでなくとも、お気軽に職員までお声をおかけください。

パソコンをいじる合間に筋力トレーニングみたいなことをやる。(注⑧)

デイサービスにおきましても「科学的(根拠のある)ケア」に取り組んでまいります。秋雄さんは「筋力トレーニングみたいなこと」と言っていますが、正確には「筋力トレーニング」ではなく、**運動トレーニング(正確にいうと「不活動筋肉の再活動化」)**です。こういった「ご自宅での生活維持」につながっていく運動トレーニングには、積極的に取り組んでまいります。

2012.11.11 制作・著作 社会福祉法人 上溝緑寿会

※本資料は、社会福祉法人上溝緑寿会が作成したオリジナルの資料です。当法人に許可なく、複製、転用、転載することを厳に禁止します。